

ベトナム・ナウ(2011年)    ホーチーミン市    バイク事情

ベトナム南部のホーチーミン市周辺を訪れる格安ツアーで10月に始めてベトナムを訪れた。フリータイムが多いので、街を散策するのが好きな私にとっては、この種のツアーは自由度が有ってよい。まだ観光環境が整っていないので、限られた地域しかいけなかったが、現在のベトナムの状況を紹介する。

商業都市ホーチーミンは1975年統一成るまではサイゴンと呼ばれていた。ミュージカルの題にもなったことがあるサイゴンの名前の方が我々には親しみやすい。

まず到着して目を見張るのがバイクの多さである。道いっぱいに広がったバイクの群れが早朝から夜遅くまで、休日も平日も走り回っているのだから驚きである。それに混じって自転車や車も走っているが、圧倒的にバイクの世界になっていた。



上の写真は中心街から車で15分くらいの住宅街にある宿泊したホテルの近くで撮ったものである。一方通行で信号がついているので道一杯に広がって突進してくる。これが一日中切れることがない。現地ガイドのLinh(林)さんの話では家の中が狭く、暑いので、若者たちはバイクで風を切って涼み、公園で友人と会って、就寝に帰るのだそうだ。

フランスの植民地だったこともあり、交差点はロータリー形式になっているところが多い。信号がついている十字路は少ない。このロータリーでは車もバイクも一時停止しないから危ない。バイク同士の十字交差や車の前後すれすれに通過していくバイクがあってハラハラものである。



二人乗りもよくみかけるし、親が二人で乗ってその前に子供をそれぞれ抱いた四人乗りもいる。こんな状況でよく事故が起こらないものだと思って、リンさんに聞いて見た。事故は結構起きていて、怪我をする人が多いらしい。

私も街中を見たのは二日間だったが、その間でさえも二件の事故を見た。一つは接触事故で道の真ん中で言い争っている現場、もう一つは子供二人を前後に乗せた若いお母さんが接触横転して、子供がおお泣きしているのを周囲の人たちがバイクを止めて助け起こしている場面であった。混雑しているので、そんなにスピードは出せない。接触事故程度のものが多いのだろう。



上の写真の左は中心部に近い商店街で、日曜日だったので、子供を乗せた人が多くいた。右は駐車している様子。中心部に近いところでは駐車スペースが決められている。

乗っているバイクの機種もいろいろだが日本製が多い。リンさんの話によると日本製のホンダ、ヤマハ、スズキは円換算で60~80万円と高額だが性能が良く、故障しないので、若者のあこがれの対象になっているようだ。それに比べて中国製は4万円で購入できる。ただすぐ故障してしまうのだそうだ。中にはまず中国製のものを買ってバイクライフに入り、その後部品を日本製に取り替えていく人もいるらしい。

街でいかにも中国製らしい無骨なバイクを見かけたので、表示板を見たら「HOMDA」になっていた。「HONGDA」というメーカーもあるとリンさんは言っていた。中国製バイクにホンダのサドルを付けて、いかにも日本製らしく見せかけているものもある。車はまだ個人では高額すぎるし、頼んでも入手するまで数ヶ月かかる順番待ちの状態だと言っていた。その内にやがて、車社会になるのだろうが、かなりのインフラ整備が必要と思われた。

このバイクの混雑は都会の若者の流行模様で郊外に行くとなお少ないし、郊外から野菜や果物を売りに来ている人や年配者はまだ自転車を使っている。サイゴンというイメージにはニッパ椰子で編んだ三角帽を被った姿と女性の「あおざい」姿があるが、都会でそれを見掛けるのは少なくなっている。



宿泊したホテルが下町住宅街にあって、その近くで見つけた年配者の乗った年代物の自転車。背景にアップルのロゴがある。日曜で店が開いていなかったがパソコンや携帯電話を扱っている商店らしい。



泊まったホテルは欧風の五つ星だが、正面に数台のタクシーが駐車できるだけで、あとはバイクの駐車スペースになってしまっている。従業員用だけではないようだ。気軽に停めて歩いて他の商店に行く人を見掛けた。

ホーチミン市の第一印象はバイクの多さと混雑さであるが、若者の活気を感じる今でもあった。